

(鹿屋市西祓川町神野牧)

位置と環境

遺跡は、市域のほぼ中央、市街地の北約2.5kmの神野牧の河岸段丘上に所在する。高隈山系東端部にあたる桶ヶ平山の裾部に広がる大須原台地東北部の標高約75mの台地上から肝属川右岸の標高約40mの河岸段丘に至る広い範囲に立地している。肝属川に沿って北側には中野遺跡、南東に薬師堂遺跡・西祓川遺跡が隣接している。また、対岸には堀ノ牧遺跡群、上流には上祓川遺跡群など縄文時代から古墳時代の遺跡が多数立地する環境にある。

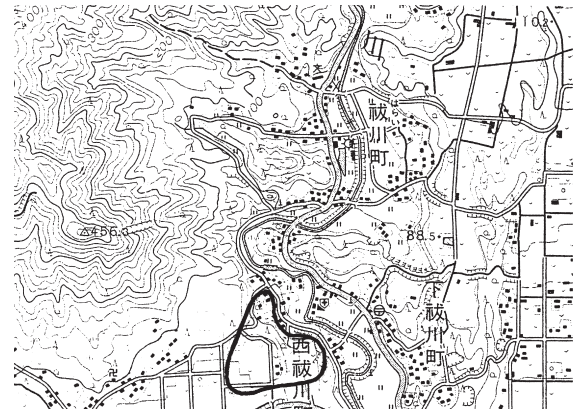
調査の経緯

調査は、平成元年度に県道鹿屋環状線鹿屋祓川地内特殊工事に伴い、鹿屋市教育委員会が確認調査を実施した。平成6年度には鹿児島県教育委員会が主体となり道路改良工事対象部分1,030㎡について本調査が実施されている。

遺構と遺物

平成6年度の調査は、Ⅶ層から縄文時代早期の遺構・遺物が、アカホヤ火山灰層上位のⅤ層からは主に縄文時代前期の遺構・遺物が発見された。

縄文時代早期の遺構は、集石16基が調査区域のほぼ全域で検出された。しかし、段丘面の河岸よりにやや濃密に分布する傾向を示す。集石は径100cm前後の範囲に、40～100個程度の握り拳大の礫によって構成され、礫が局部的に密集するものと散布的なものがある。また、5号集石は集石の下部に浅い

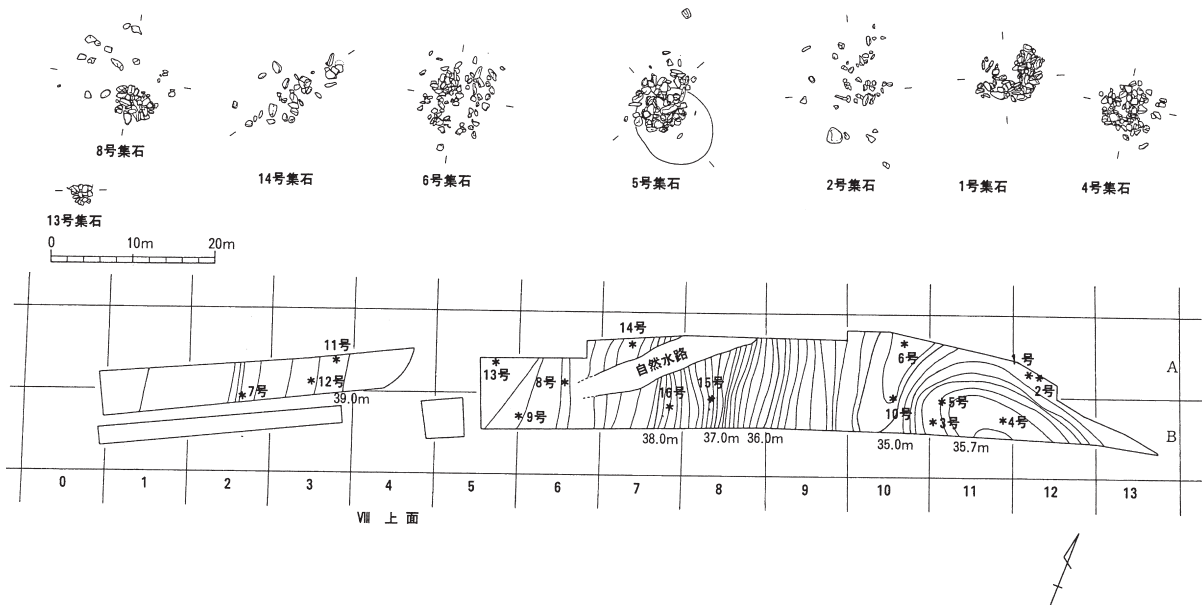


第1図 神野牧遺跡の位置

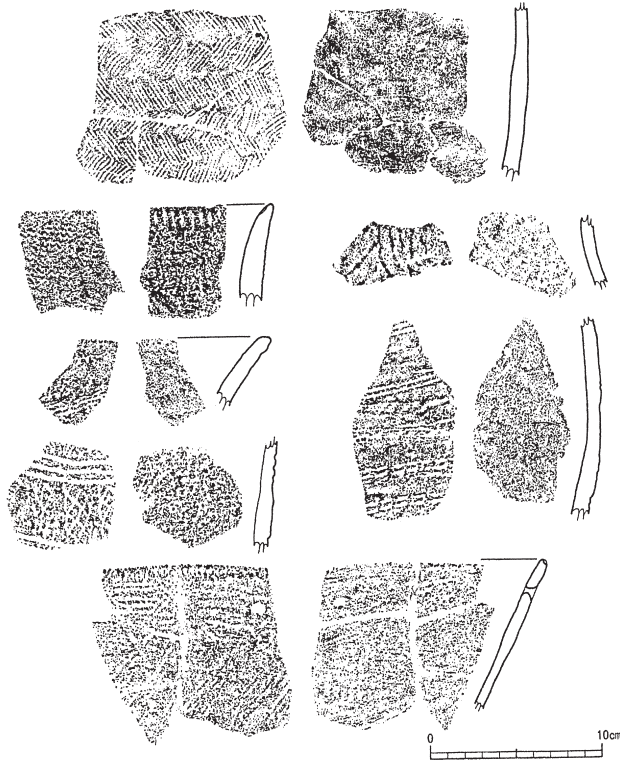
皿状の掘り込みが確認された。石材は、砂岩・頁岩など堆積岩系で熱変成によりホルンフェルス化したと見られる自然礫を主体に、安山岩系の礫も含まれる。赤化や熱破砕など使用時の比熱の痕跡を示すものが多く、礫器や敲石の転用もみられる。6号・11号集石では、集石内から塞ノ神式土器、押型文土器が出土している。

土器には、桑ノ丸Ⅲ類、押型文土器、手向山式土器、塞ノ神A式土器、塞ノ神B式土器、右京西タイプなどが出土している。石器は、使用痕のある黒曜石製剥片、大分県姫島産とみられる剥片素材の石核、大型剥片素材のスクレイパー、ホルンフェルスの垂円礫に調整を加えた礫器、磨石・敲石、石皿などが出土している。

縄文時代前期の遺構は、段丘縁辺の河岸に近い地点で集石3基が検出された。いずれも径50cm～120cmの範囲に礫が密集する形態で、礫には火熱の痕跡



第2図 縄文時代早期遺構配置図

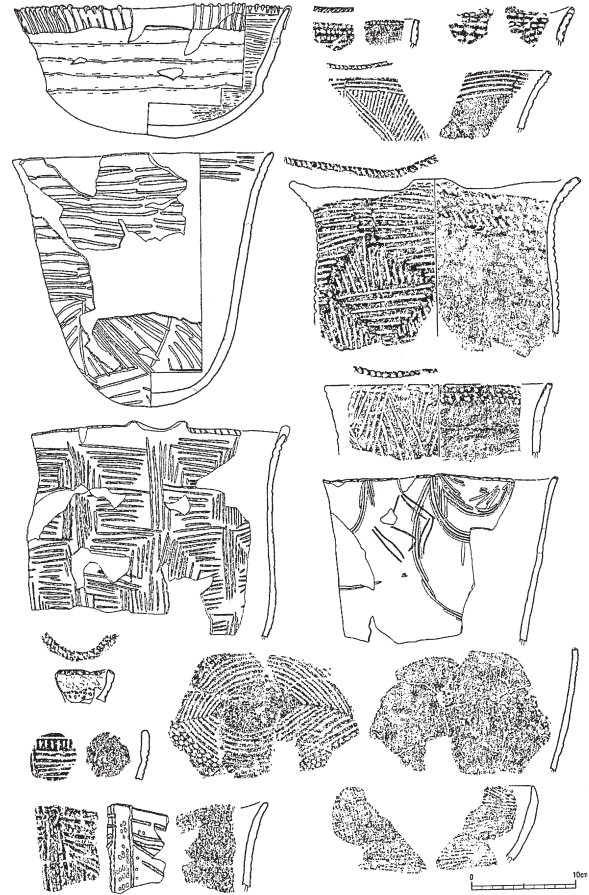


第3図 縄文時代早期土器

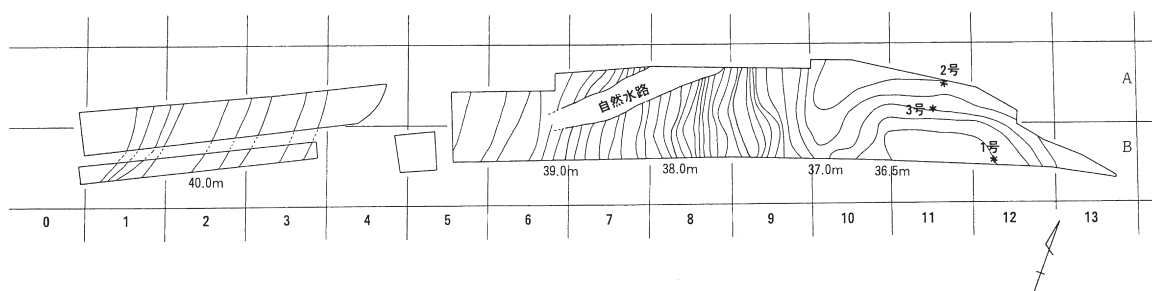
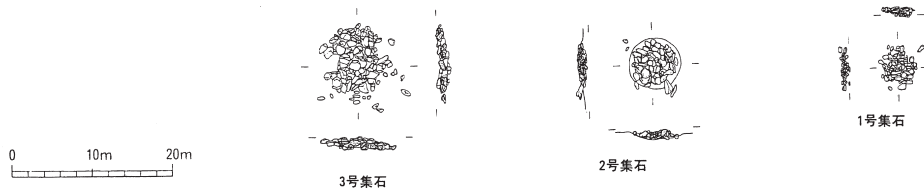
が見られる。3号集石では下部に浅い皿状の掘り込みが確認された。

土器は、微隆起線文をもつ荘タイプの轟B式土器、曾畑式土器、深浦式土器などが出土したが、その中心は数量的にも曾畑式土器がほとんどを占めている。この曾畑式土器は、形式論や層位的出土例に基づき3形式に区分されるが、本遺跡では口縁部の内外面に刺突文を施し、胎土には滑石を含むI式土器、第一文様帯に横位の沈線、第二文様帯には折帯文・四

角文・横位の短沈線が施文され、口縁部内面が横位の短沈線・刺突もしくは無文となるII式土器と、第一文様帯が数段の四角文のみによって構成されるIII式土器とがあり、II・III式土器がほとんどを占める。このほか同一層から上下対称の重弧文とこれに沿って3条の刺突を施す土器、口唇部に刺突、外面は器面調整の条痕を残して、その上に浅い沈線で施文す



第4図 縄文時代前期土器

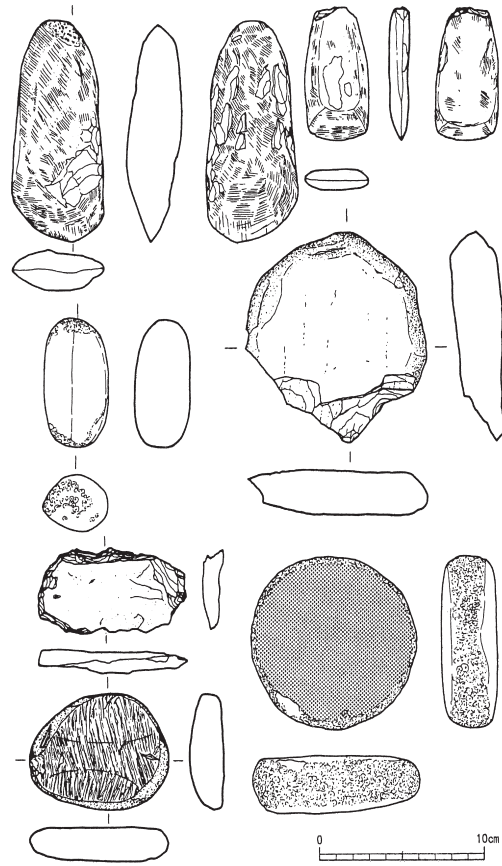


第5図 縄文時代前期遺構配置図

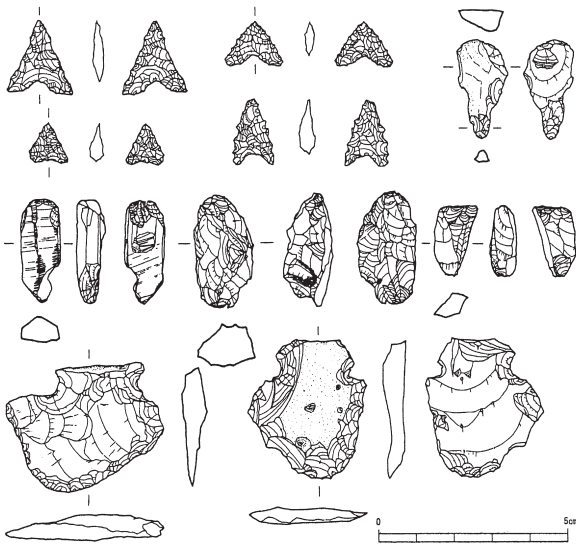
る土器などが出土しており、その位置づけが注目される。また、シダ科植物の葉痕をもつ焼成粘土塊も出土している。

石器では、石鏃、石錐、石匙、スクレイパー、楔形石器、磨製石斧、礫器、磨石・敲石類、石皿、砥石、石核、剥片など多様な器種が出土した。剥片石器では、三船、上牛鼻・平子場、桑ノ木津留など県内産とみられる黒曜石をはじめ、腰岳など西北九州産とみられる黒曜石のほか、ハリ質安山岩、水晶、蛋白石、チャートなどの石材が用いられている。このうち、水晶・石英は近隣の鹿屋市郷之原鳴之尾に産出する。礫器・叩石では、高隈山系に産出するホルンフェルスが多用される。磨石・敲石類では多孔質の安山岩が多く、これに砂岩・花崗岩が、石斧では、ホルンフェルス製のほか蛇紋岩製が出土している。これら石器には製品のほかに素材原石、未製品、製作段階を示す石核・剥片、使用による欠損品などが出土しており、原材料獲得から製作・使用・破棄に至る各過程が看取される。

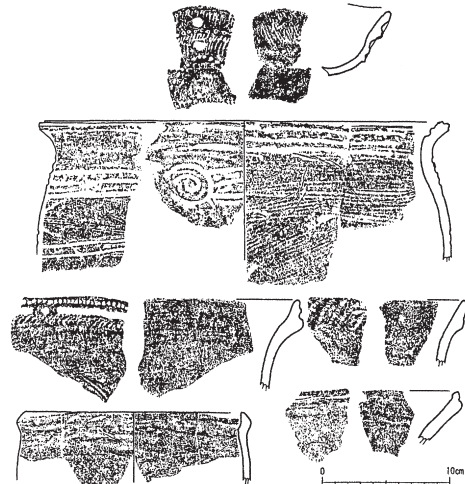
そのほかの時期の遺物は、IV・III層から縄文時代中期～晩期の船元式土器、条痕土器、指宿式土器、



第7図 縄文時代前期石器(2)



第6図 縄文時代前期石器(1)



第8図 縄文時代後期土器

市来式土器、黒色磨研土器のほか成川式土器、土師器も少量出土している。

特徴

内陸部の河岸段丘上に立地する縄文時代の遺跡で、南九州における前期曾畑式土器の様相を知る上で重要な遺跡である。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保

管されている。

参考文献

鹿屋市教育委員会1989「神野牧遺跡」『鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書』14

鹿児島県立埋蔵文化財センター1997「神野牧遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』20

(中原一成)